

「衆知を集める」

校長 桐野 和之

皆さんは、松下幸之助という人を知っているでしょうか。この人を知っている人は少ないかもしれませんが、「パナソニック」を知っている人は多いのではないのでしょうか。

テレビや冷蔵庫、エアコンや洗濯機、そして携帯電話など、たくさんの電化製品をつくらせている日本を代表する世界的な大企業です。松下幸之助は、そのパナソニックの創業者です。

松下幸之助は、1894(明治27)年に和歌山県で生まれました。幸之助が4歳の時、父親が事業に失敗し、土地と家の財産を失ってしまいました。家の経済が苦しくなったので、幸之助は小学校を4年でやめて、家族とも離れてたった一人で大阪に奉公に出ました。「奉公」というのは、お店などに住み込んでお店の手伝いや仕事をする事です。

幸之助は体も弱く、奉公の仕事は小さい子どもには大変厳しいものでした。しかし、一生懸命に仕事に励み、他の人よりも早く仕事を覚え、技術を身につけました。そうした努力の甲斐あって、幸之助は1918(大正7)年、23歳の時に、大阪市で「松下電気器具製作所」という小さな自分の工場をつかって独立しました。この小さな工場こそが、後に世界的企業となる「パナソニックグループ」の始まりだったのです。松下幸之助は、この小さな会社を一代で大企業に育て上げたのですが、どうしてそんな大きな仕事のできたのでしょうか。皆さんも不思議に思いませんか。

幸之助は小学校を四年生でやめてから学校で学んでいないのです。もちろん中学校にも行っていません。しかも身体も丈夫とは言えませんでした。ですから、小さい頃から苦勞を重ねてきたのです。いったい、幸之助は会社を経営する事をどこで学んだのでしょうか。

幸之助は学校で学べなかったことを仕事の中で学んだのです。仕事をしながら会社を経営することを学び、その能力を身につけたのです。幸之助は、91歳の時に、これまで一番うれしかったことは何かと問われて、奉公を始めて半月ばかり経った頃、店の主人から初めてもらった五銭白銅貨のことを話したそう



です。このように幸之助は、苦勞の中に喜びを見つけ学ぶ人でした。その幸之助の言葉に「衆知を集める」という言葉があります。「一人より二人、二人より三人、できるだけ多くの人から、できるだけ多くの話を聞こう。」と幸之助は言っています。私たちはついつい自分の意見が一番いいと思ったり、他の人の考えより自分の考えの方が正しいと思ったりしがちです。自分の意見や考えに自信をもつことは良いことですが、友だちの意見や考えを聞かずに自分の考えを押し通すのは間違っています。幸之助は独りよがりな自分だけの考えで商売すると、お店は繁盛しないし、お客様はそんなお店には来なくなると考えました。

私たちは授業中に、グループで話し合ったり、席の近い人同士で話をしながら考えや意見を交換して学習を深め合ったりすることがあります。これは、正しく「衆知を集め」て、より良い考えや学びをしようとしているのです。班やクラスで話し合う時も同じです。一人より二人、二人より三人、できるだけ多くの人から、できるだけ多くの話を聞くことで、より良い考えが導き出されたり、より豊かな学びに結びついたりします。いろいろな人の話に耳を傾け、少しずつ自分で消化しながら、必要なことを学んでいくことが生きた学習と言えるのではないのでしょうか。そして、そのことが楽しい学級、学年、学校をつくることにつながると思います。



2年生スキー移動教室実施

スキー移動教室が2月14日(日)から17日(水)までの3泊4日の日程で、ベルデ軽井沢を宿泊施設、湯の丸スキー場を実習舞台として行われました。元気よく過ごした生徒達の体験レポートとともに、先生、生徒の行事の振り返りについてお伝えします。

第1日目

雨天のため、体育館集合。武田学年主任より、生徒達にトイレの指示や注意事項が伝えられてバスへ移動。外は風が強く雨だが、南風のため気温は高い。

6時55分頃、先生方や保護者、生徒に見送られて学校を出発。予定通り、10時過ぎに宿泊施設、ベルデ軽井沢に到着。生徒達はすぐにウェアやスキー靴について宿舎の方々の説明をグループごとに受ける。



11時、宿舎を出発。スキー場に向けて宿舎を出発する際に、宿舎の支配人さんが、一昨年、ベルデ軽井沢での学園中スキー移動教室実施が危ぶまれたことを思い出し、その当時、学園中が到着した時刻や校長の似顔絵までを細かく手帳にメモされていたことを見せてもらい、当時、受け入れ体制を入念につくって頂いた事を思い出し、あらためて感謝、感激。12時、湯ノ丸スキー場到着。すぐ昼食。メニューは牛丼。



13時スキー開始。インストラクターさんの指導によりスキーをつけて歩く練習をする班や転び方を練習する班。また、早速リフトに乗ってゲレンデの上へ行く班も。皆さん真剣そのもの。でも表情は楽しそう。天候は曇り。

15時スキー終了。何人かの生徒達に感想を聞くと、「疲れたけど楽しかった。」とコメント。この日夜はレク。係を中心に自分たちでしっかり楽しんでいたことが印象的だった。



第2日目

今日は、スキーの講習の前にインストラクターによるデモンストレーション。見事な滑りに拍手喝采。その後、スキー講習。子どもたちのスキルアップが早い。初日に比べると早くもゲレンデで滑走する班が多くなる。子どもたちの適応力や順応性の早さに驚く。特に午後は、林間コースに出る班が多かった。12時昼食。メニューは親子丼。午後はクラス写真撮影後、スキー開始。午前中に比べて、スキーの技能がどんどんレベルアップしていく。15時スキー終了。レストハウスにておやつタイム。皆でドーナツを食べる。



スキー場からの帰りのバスでは疲れが出たためかウトウトする生徒が多い。それでも感想を聞くと「めっちゃ、楽しい!」と一言。この日も夜はレクタイム。係の人たちは大活躍。あちこちで笑いや歓声。レク係の人たちに感謝。



第3日目

スキー実習最終日となる。天気は快晴、素晴らしい天候。しかし、気温は氷点下。驚くほど寒い。予報を見て厚着してきたがそれでも寒い。

生徒達を見ていると、いろいろな班がどんどんリフトへ行く。ちょっと間を置くともうどこにいるのか見当たらないほど、スキー場のいろいろなコースへインストラクターとと

もに出かけていく。写真を撮ろうとして追いかけるがなかなか上手く追いつかない。

スキー実習は順調に進む。午前中だけでも生徒達のスキーの腕前はかなり上達したように見える。いや、したはず。素晴らしい。そして、誰に聞いても男女問わず、「楽しい。」と言ったことがとても印象に残る。12時昼食。メニューはカレーライス。皆良く運動したせいかたくさんおかわりした。午後もあっという間に時間が過ぎ、15時にスキーは終了。閉校式の後に皆でおやつにお汁粉を食べる。疲れている子ども多いが、皆さん楽しそう。この日も夜はレク。寸劇に学年全員の子たちが楽しむ。



第4日目

生徒達の表情にさすがに疲労の色が。でも夜はよく寝ていた。立つ鳥跡を濁さず。

朝食後、みんなで部屋の掃除や寝具の整理。そして、荷物の整理をして帰る準備。

宿舎の方々や看護師さんから、生徒の態度が素晴らしいと褒められる。特に看護師さんは感激して先生方に、生徒が「何も言わないのに食器を下げてくれたんですよ。」と、そっと伝えてくれました。

いろいろな場面で子どもたちの素晴らしさが発揮されたスキー移動教室でした。また、自主的に運営するという面がかなり育っていました。これからも、自主性をぜひ大切にしたいものです。



スキー移動教室を振り返り

第二学年主任

2月14日(日)から17日(木)までスキー移動教室が行われました。宿泊はベルデ軽井沢、そこからバスで1時間ほどの場所にある湯の丸スキー場でスキーの実習を行いました。

14日の朝は、東京は気温が高く、雨が降っていました。大きな荷物を抱えた生徒たちは、雨に濡れながらバスへ移動となり、少し不安な出発となりました。軽井沢に到着すると、雨は上がりスキー場で実習を始めるころには汗ばむほどの晴天となりました。

実習の3日間を通して天候に恵まれ、生徒はそれぞれのスキー技能に応じた技術を学び、みんな楽しく上達し、滑ることができました。

今回のスキー移動教室では「一人一役、責任をもって行動しよう」をスローガンに事前の準備や当日の係活動に取り組みました。食事や入浴は、生徒が主体となって時間を守って進めることができました。またレク係は、内容をよく考え準備することで、みんなを楽しませるレクを行うことができました。

生徒たちは、3泊4日の移動教室の中で、ルールをしっかりと考え、守ることでみんなが気持ちよく生活できることを経験できました。3ヵ月後には修学旅行があります。今回のよくできたこと、がんばったことを生かして修学旅行も成功させてほしいと思います。

2年A組 女子生徒

私は、今回のスキー教室を通して学んだことがあります。

一つ目は、努力の大切さです。私はスキーをしたことが無かったので、「皆についていけなかったらどうしよう。」という不安が大きく、正直スキー教室は楽しみではありませんでした。スキー教室一日目だって決して上手に滑れたといえませんでした。インストラクターのSさんや友達が助けてくれたり、声を掛けてくれたりしたおかげで「自分も頑張らなくちゃ。」という気持ちをもつことができ、二日目にはリフトに乗って滑ることができま

した。もちろん二日目だって三日目だって転んだり上手くいかない部分も沢山あったけど私はここまで努力してできたことが大切だったと思うのでスキー教室だけで終わらせずテスト勉強だったり、日頃の生活にも生かしていきたいです。

そして二つ目は友達との関係です。この三泊四日のスキー教室を通してA組の友達ともしっかり仲良くなれたんじゃないかなあと私は思っています。ですが、そのせいで夜に先生から注意を受けたこともありました。今思い返すと私たちの行動は皆の自由を奪うことにつながっていたなあと気付きました。本当に皆のことが大事だったらあの場で私は注意をすべきだったと思いました。今回は自分も一緒になってやっていたけど今回の経験を生かして皆の自由を守れるようにしなくちゃいけないし、自分が大事だといえる友達も大切にしていかなければいけないなあと思ったので一つ一つの行動に責任をもてる人になれるようにしたいです。

三泊四日という短い間だったけど、本当に沢山のことを学べたし、今まで以上にA組のことを好きになれてよかったです。最後の行事の球技大会に向けてもっと団結できるようになりたいです。

2年E組 女子生徒

「正直あまり楽しみではない。」これが私の初めの気持ちであった。しかしこの四日間はそんな感情をいとも簡単に変えた。

スキー教室当日。スキー実習はあっという間に終わってしまった。宿舎でレクも終了。まだ半分しか一日を過ごしていないと思う程一日が早くて、凄く楽しかった。

二日目。私たちの班は朝食に行くのが少し遅かった。「明日は早く来ようね。」室長の言葉に「そうだね。」と皆が頷いていた。なんだか良いな、そう感じた。スキー実習が終了し、宿舎でのレクの時間。レク係の私に沢山の人が、「頑張ってるね。」「楽しみにしている。」と声を掛けてくれた。凄くやる気になれた。

三日目。スキー実習最終日で、実習が終了した時、実習班の人たちがインストラクターさんに感謝の言葉を口にしていました。本当に楽しいスキーであった。レクも、一つの時間を皆で共有しあえて楽しかった。

四日目。部屋の清掃時「私はこっちやるね。」「ちょっと手伝って。」「いいよ。」という声が沢山聞こえた。宿舎を出る時も感謝を伝えていた。やっぱりこの班良いな、と思えた。

四日間過ごしてコミュニケーションって大事なな、言葉を伝えるって良いことだな、と感じた。そして友達や人と話すことが楽しい、面白い、と思った。温かい言葉が沢山だった四日間に感謝の気持ちでいっぱい。「楽しみではなかったスキー教室」は大きく変わって、「凄く楽しかったスキー教室」となり中学時代の思い出の一つとなった。

第3回学校評議員会

副校長 今本 由美子

2月8日(月)、本年度最後の学校評議員会を行いました。校長あいさつの後、各学年の教員から学年の様子、また、養護教諭から、保健室の利用状況や各検診の結果等をお話しし、その後、学校評価についてご意見をいただきました。その中で、小学校の頃に比べ、中学校に進学すると、学校公開等にも参加しづらく、保護者が学校に行く機会が減り、学校の様子が見えにくくなるのではというお話がありました。

学校では、保護者、地域の方に、もっと学校公開等にお越しいただき、取り組みの様子を見ていただけるよう、日時の設定や内容、事前のお知らせ方法等を工夫して参ります。保護者、地域の皆さまも、ぜひ、学校公開日や道徳授業地区公開講座、セーフティ教室、情報モラル教室等にご参加くださいますよう、お願いいたします。